

グローバル化に対応した英語教育に向けて

◆ 英語教育充実のための小中学校連携事業 ◆

県内全域の公立小・中学校において、中学校の英語担当教員が、校区内の小学校5・6年生の授業をサポートしています。

このことにより、小学校における英語の授業が充実するとともに、中学校においても、小学校での学習を踏まえた授業を展開することで、児童生徒の英語力が向上することを目的としています。

2020年度から、小学校3・4年生で、外国語活動(週1コマ)が実施となります。

英語であいさつしたり、歌やゲーム、会話練習をしたりして、体験的に英語の音やリズムに慣れ親しみます。



また、小学校5・6年生では、英語(週2コマ)が教科として実施されます。

英語を聞いたり、話したりすることを中心に、外国語活動から十分に慣れ親しんだ簡単な言葉を読んだり、書き写したりすることにも取り組みます。

◆ 中学2年生対象英語スピーキングテスト実施 ◆

今年度から全国学力・学習状況調査に英語調査(4技能調査)が導入されたり、2020年度から新しくなる大学入学共通テストでは、英語資格検定試験(4技能調査)が活用されたりするため、グローバル化に対応した英語教育に向けた充実が求められています。

本県では、英語の4技能をバランスよく育成するため、昨年度から香川県学習状況調査の中学校2年生の英語調査において、これまでの「聞く、読む、書く」調査に、英語資格検定試験を活用した「話す」調査を加え、4技能を測定し、学力をきめ細かく把握して学習の改善を図っています。

小学校の時から学んできた英語で聞くこと、話すことについて、客観的な指標を用いて評価されるため、自らの学習を振り返り、今後の学習の方法を具体的に直すことができます。

試験では、タブレット端末とヘッドホンを使用し、出題される問題に対して、英語で回答します。

これまで学習してきたことを活用し、自分の気持ちや考えを自分の言葉で伝えます。発音やイントネーションも大切です。

